

# 標十五句

松岡隆子選

ぶつかれる水の碧さの雪解川  
雨ぱらと過ぐ草の芽の息づかひ  
榛の木の黒ずむまでの風強し  
つらつら椿遠回りしてしまふ  
一陽来復着信音たからか  
夫そつとしておくバレンタインの日  
川底の苔のゆらりと春隣  
山毛櫨林の間遠に初音聞く日かな  
折りたたむ椅子や机や春を待つ  
冬深し大樹を囲む矢来垣  
風が火を火が火を煽りお山焼  
一瞬の羽音に緩ぶ春の水  
鴨一羽急使のごとく池過り  
裸木の影の交錯古戦場  
綿虫と来てゆふぐれの余白かな

下平直子  
渡辺あつ子  
別府優  
濱地恵理子  
川上昌子  
松原ふみ子  
中嶋孝子  
佐藤郭子  
秋元きみ子  
鶴見静枝  
植草京子  
東條恭子  
辻宏視  
田幡栄子  
田坂孝志